

リウマチ性疾患の今

～治療とケアで明るい毎日を～

第69回日本リウマチ学会総会・学術集会の開催を記念し、「リウマチ性疾患の今～治療とケアで明るい毎日を～」をメインテーマに、福岡市を会場に市民公開講座を開催します。

入場
無料

要事前申し込み

日時

2025年5月18日 日 13:00
15:20

会場

アクロス福岡 B2F
イベントホール (福岡市中央区
天神1丁目1番1号)

定員

800名 ※応募多数の場合は抽選



川上 純 先生



中山田 真吾 先生

プログラム

| | | |
|--------|------|---|
| 13:00～ | 開会挨拶 | 座長 川上 純 先生(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科先進予防医学共同専攻リウマチ・膠原病内科学分野) |
| 13:05～ | 講演 1 | リウマチ性疾患では体の中で何が起きているの? 藤尾 圭志 先生(東京大学大学院医学系研究科内科学専攻アレルギー・リウマチ内科) |
| 13:35～ | 講演 2 | 関節リウマチの治療薬を上手に使うために:患者さんと一緒に歩む治療の道のり 岩本 直樹 先生(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科先進予防医学共同専攻リウマチ・膠原病内科学分野) |
| 14:05～ | 休憩 | |
| 14:15～ | 講演 3 | 脊椎関節炎の診断と治療の進歩 岸本 暢将 先生(杏林大学医学部 腎臓・リウマチ膠原病内科) |
| 14:45～ | 講演 4 | 膠原病の治療もどんどん進化しています 座長 中山田 真吾 先生(産業医科大学医学部第1内科学講座) |
| 15:15～ | 閉会挨拶 | 座長 川上 純 先生(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科先進予防医学共同専攻リウマチ・膠原病内科学分野) |

申し込み方法 インターネット／はがき／FAX

● インターネット

インターネットからの申し込みは
右記の二次元コードからお申し込みください。

● はがき／FAX 応募締切:5月2日(金)必着

①お名前(ふりがな) ②郵便番号・住所 ③電話番号 ④メールアドレス(お持ちの方のみ) ⑤年齢
⑥希望人数(最大4名まで、本人含む) ⑦同行者名 ⑧同行者の住所が異なる場合は、同行者の郵便番号・
住所・電話番号・メールアドレス(お持ちの方のみ)をご記入の上、下記送り先までお送りください。

応募は
コチラから



応募多数の場合は抽選となりますので、予めご了承ください。
抽選結果は当選者にお知らせいたします。いただいた個人情報
は適切に管理し、本講座の運営以外には使用いたしません。

[主催] 第69回日本リウマチ学会総会・学術集会

[共催] 西日本新聞社

[後援] 厚生労働省、公益社団法人日本医師会、
福岡県、福岡市、公益社団法人福岡県医師会、
一般社団法人福岡市医師会、
公益社団法人日本リウマチ友の会、
一般社団法人全国膠原病友の会

お問い合わせ先
お申し込み先

日本リウマチ学会市民公開講座事務局 (西日本新聞イベントサービス内)
〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-1
TEL:092-711-5491(平日9:30～17:30) FAX:092-731-5210

講演 1

リウマチ性疾患では体の中で何が起きているの？

藤尾 圭志 先生(東京大学大学院医学系研究科内科学専攻アレルギー・リウマチ内科)



リウマチ性疾患は、本来体を守る免疫系が自分の体を攻撃して炎症を起こす病気です。なぜそのようなことが起きてしまうのかは、まだわかっていません。しかしながら、内臓に炎症が起きるときに、様々な免疫細胞が関わることが分かってきました。それらの細胞は、大きく抗原提示細胞、T細胞、B細胞に分類されます。これらの免疫細胞は相互に協調して働きますが、その際にサイトカインというものを使ってコミュニケーションしています。最近疾患毎の免疫系の異常が分かってきて、特定のサイトカインや免疫細胞を抑える治療が有効であることが示されています。本セミナーではリウマチ性疾患の成り立ちと治療について解説させていただきます。

略歴

1995年3月 東京大学医学部医学科卒業
1998年4月 東京大学大学院医学系研究科内科学専攻入学
2001年4月 日本学術振興会特別研究員
2002年3月 東京大学大学院医学系研究科内科学専攻卒業
2006年4月 東京大学病院アレルギー・リウマチ内科助教
2012年4月 東京大学病院アレルギー・リウマチ内科医局長・特任講師
2013年5月 東京大学病院アレルギー・リウマチ内科講師・入院診療担当副科長
2017年6月 東京大学大学院医学系研究科内科学専攻アレルギー・リウマチ学教授

所属学会

日本リウマチ学会(理事)、日本内科学会(評議員)、日本臨床免疫学会(理事)、日本免疫学会(評議員)、日本炎症・再生医学会(理事)、日本免疫不全・自己炎症学会(理事)

講演 2

関節リウマチの治療薬を上手に使うために:患者さんと一緒に歩む治療の道のり

岩本 直樹 先生(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科先進予防医学共同専攻リウマチ・膠原病内科学分野)



関節リウマチの治療は、医学の進歩により、多くの有効な治療薬が開発されました。早期に適切な治療を開始することで、健康なときと変わらない生活を送ることも期待できます。しかし、より効果的に治療するためにはどの薬をどのタイミングでどの患者さんに使用するかを適切に選択することが重要です。また、治療の選択肢が増えたことで、医療者と患者さんが協力しながら治療を進めることの意義も高まっています。本セミナーでは、関節リウマチの治療について理解を深め、より安心して治療を受けられるよう、治療薬の効果や治療戦略の最新情報を分かりやすく解説するとともに、患者さんとともに歩む治療の重要性についてお話ししたいと思います。

略歴

2002年 長崎大学医学部医学科卒業
同年 長崎大学病院第一内科
2003年 国立病院長崎医療センター
2004年 国立病院機構佐賀病院
2007年 光晴会病院
2008年 長崎大学病院第一内科
2010年 スイス、チューリッヒ大学病院, Center of Experimental Rheumatology
2012年 長崎大学病院 リウマチ・膠原病内科 助教
2021年 長崎大学病院 リウマチ・膠原病内科 講師
2022年 長崎大学病院 リウマチ・膠原病内科 准教授

所属学会

日本内科学会、日本リウマチ学会、日本臨床免疫学会、日本骨免疫学会

講演 3

脊椎関節炎の診断と治療の進歩

岸本 暢将 先生(杏林大学医学部 腎臓・リウマチ膠原病内科)



脊椎関節炎は、強直性脊椎炎(AS)、X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎(nrAxSpA)、乾癬性関節炎、炎症性腸疾患に伴う脊椎関節炎等を含む脊椎や仙腸関節などの体軸関節に炎症を起こす疾患である。早期診断を目的に2009年に新しい分類基準が整備された。ASに対する治療法においては、TNF阻害薬に加え、IL17阻害薬、JAK阻害薬などの分子標的薬が承認され、脊椎の強直の進行抑制効果が期待されている。薬剤の適応拡大と合わせ、的確な診断が重要となっている。治療ゴールは、疾患活動性(例ASDAS)と脊椎の強直進行に相関関係が証明され、寛解・低疾患活動性を目標に治療を行う。体軸性脊椎関節炎の欧州ASASからの治療推奨が2022年updateされ最新情報も含めご紹介する。「利益相反:あり」

職歴

1998年 北里大学医学部卒業後、沖縄県立中部病院にて初期研修
2000年 在沖縄米海軍病院にてインターンシップ
2001年 ハワイ大学・ニューヨーク大学にて内科およびリウマチ膠原病専門研修
2006年 亀田総合病院
2009年 聖路加国際病院Immuno-Rheumatology Center
2019年から現職

専門医等

日本リウマチ学会専門医、指導医、評議員
日本内科学会総合内科専門医、指導医
米国リウマチ膠原病科専門医、米国内科専門医
日本臨床免疫学会免疫療法認定医
リウマチ財団登録医

講演 4

膠原病の治療もどんどん進化しています

中山田 真吾 先生(産業医科大学医学部第1内科学講座)



近年、研究の進歩により、膠原病の治療法が大きく変わってきました。特に、生物学的製剤や低分子化合物といった「分子標的薬」が登場し、これまでの治療では十分な効果が得られなかった患者さんにも新たな選択肢が広がっています。この進歩により、グルココルチコイド(俗にいうステロイド)の使い方も見直されています。例えば、急性期には必要な量を使用し、病状が安定したらできるだけ減らす、または使わない治療戦略も確立されつつあります。膠原病の治療は今も進化を続けており、患者さん一人ひとりに合った、より安全で効果的な治療が提供される時代になっています。

略歴

1996年3月 産業医科大学医学部 卒業
2004年4月 産業医科大学医学部 第1内科学 助手
2007年4月 三菱重工業株式会社神戸造船所 三菱神戸病院
神戸大学大学院医学系研究科 非常勤研究員
2009年10月 米国国立衛生研究所(NIH)訪問研究員
2012年4月 産業医科大学医学部 第1内科学講座 学内講師
2014年10月 産業医科大学医学部 第1内科学講座 講師
2021年1月 産業医科大学医学部 第1内科学講座 准教授
2025年4月 産業医科大学医学部 第1内科学講座 教授

所属学会

日本内科学会(認定医、指導医)、日本リウマチ学会(専門医、評議員)、日本臨床免疫学会(認定医、評議員、事務局長)、日本シェーグレン症候群学会(理事)、日本炎症再生医学会(評議員)、日本IgG4関連疾患学会(監事)など